

海洋島

第8巻 第2号 (通巻50号)

東京都小笠原水産センター

2006年 6月 16日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545 Fax. 04998-2-2546

メカジキに標識をつけ放流しました

標識の回収にご協力をお願いします

6月14日調査指導船「興洋」により、父島の西沖(北緯27°01.031 東経141°50.392)において、たて縄で釣獲されたメカジキ(推定体重100kg)に標識を付けて放流しました。

今回、装着した標識は、長さ5cm円筒形のセラミック製で、矢尻によりメカジキ背鰭の基底部に固定されています。図1のとおり、標識の表面には、水産センターの住所と連絡先等が記入されています。



図1 使用した標識と同型のもの

標識にはセンサーが内蔵されており、バッテリーによって最長3年にわたり30分毎のメカジキが遊泳していた水温と水深を時刻とともに記録していくことができます。また、バッテリーが切れた後もデータの読み出しは可能なので、標識のついたメカジキ

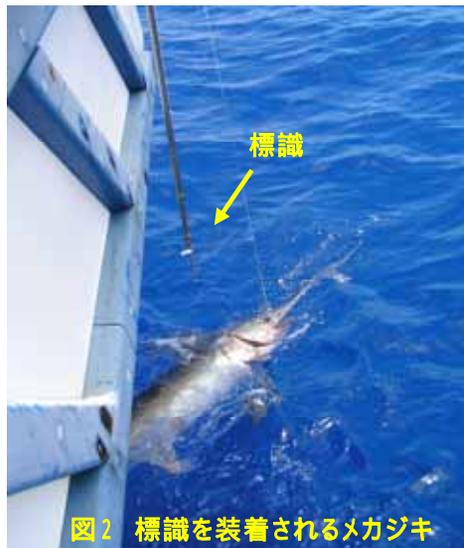


図2 標識を装着されるメカジキ

を漁獲された場合は、獲れた場所、大きさ等の情報とともに、標識の回収にご協力下さいますよう、お願いいたします。今回、標識を取り付けたメカジ

キは、運良くセンサーを取り付けていた漁具に掛かりました。得られたデータを見てみると、7時前に設置された漁具に、メカジキが掛かったのが8時57分でした。その時の水深690mでは水温は約7度でした。その後、針を外そうと海面近く(水深30m前後)まで30分間で急激に浮上しています。小刻みな浮上と潜行を繰り返したあと、再び330~340mへと潜っていきました。11時40分過ぎには舷側まで漁具が引き上げられ、図2のとおり、銚子によってメカジキに標識が取り付けられ、釣糸を切って放流されました。

標識放流の他にも、漁協や漁業者のご協力を頂き、水揚げされるメカジキの漁場位置や水深、体長、体重、雌雄、生殖腺重量などを調べています。

水産センターでは、今後も小笠原周辺におけるメカジキの回遊経路や生態解明のために、標識放流を続けていく予定です。

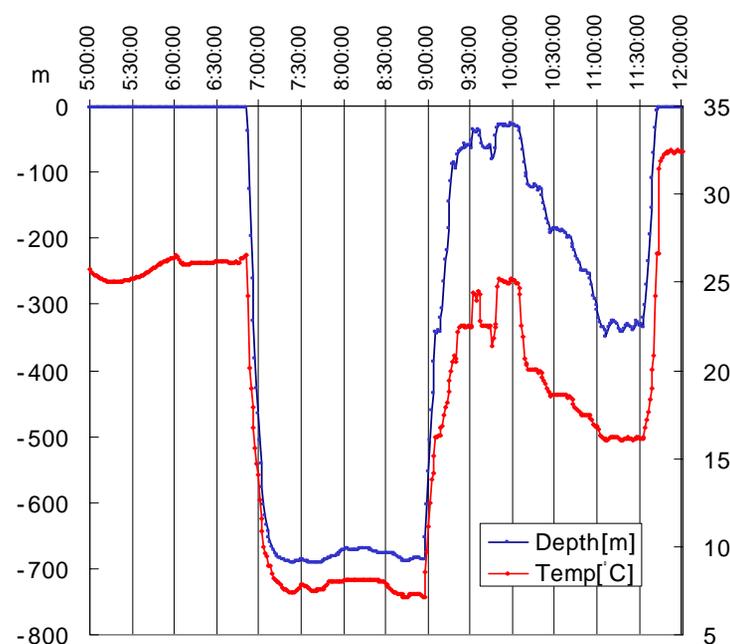


図3 漁具に取り付けた水深・水温計データ